

事業コード	H17-建-継-09		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築(バイパス)		班 名	県道・市町村道班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主)大曲田沢湖線		担当課長名	中山敏夫
箇所名	角館町広久内		担当者名	主幹(兼)班長 水木清博
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施策名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H15 ~ H18 (4年)		総事業費	8.8億円	国庫補助率	0.55	
事業規模	延長L=527m 幅員(構成)W=11.0m(2.5-1.25-6.0-1.25)						
事業の立案に至る背景	<p>本路線は、大仙二次生活圏と角館二次生活圏とを連絡する幹線道路であり、田沢湖抱返り県立自然公園やたざわこ芸術村等への観光支援道路としての機能を持つとともに、沿線住民の生活道路として重要な路線である。</p> <p>しかし、当該区間は、人家連担地域内を通過し、狭隘(車道幅員4.0m)で屈曲部も多くまた、通学路であるが歩道もないため、交通安全及び道路交通の大きな支障となっている。特に一級河川玉川に架かる広久内橋は全幅員5.0mで歩道もなく、極めて危険な状況である。</p> <p>このため、安全で円滑な交通の確保、地域間交流の促進を図るべく道路整備を行うものである。</p>						
事業目的	<p>安全な生活環境の確保(通学路における歩道未整備区間の解消)</p> <p>冬期末改良区間の解消</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	895,000	872,000	-23,000			
	経費内訳	工事費	590,000	572,000	-18,000	盛土材を他工区流用土とした	
		用補費	227,000	224,000	-3,000		
		その他	78,000	76,000	-2,000		
	財源内訳	国庫補助	492,250	479,600	-12,650		
		県債	383,000	374,000	-9,000		
その他		0	0	0			
一般財源	19,750	18,400	-1,350				
事業内容	調査・設計 改良 橋梁 舗装	調査・設計 改良 橋梁 舗装					
事業の進捗状況	用地買収が完了し、現在橋梁上部工を施工している。						
事業推進上の課題	ほ場整備関連調整事業 白岩工区と隣接しており、綿密な事業調整を図りながら一体的な整備をしていく必要がある。						
関連する計画等	あきた21総合計画における「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業 ほ場整備関連調整事業 白岩工区 白岩第1地区ほ場整備事業 玉川広域河川改修事業						
情勢の変化及び長期継続の理由	H17.4.1に田沢湖・角館・西木合併協議会が設立され、H17.9.20合併予定である。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	通学路の歩道設置率					
	指標式	設置率(設置済延長/通学路延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	40.9 %		データ等の出典	道路現況調査		
	実績値 b	38.8 %					
達成率 b/a	94.9 %		把握の時期	平成17年7月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	<p>通学路指定路線となっており、児童の安全確保のため、早急な整備が必要である。現道の車道幅員は4.0mと狭隘で、混雑度も高くなっている。</p>	12点
緊 急 性	<p>通学路指定路線であるが歩道がなく、特に広久内橋は一般車両のすれ違いが困難な危険な状態となっているため、緊急に整備する必要がある。 隣接するほ場整備関連調整事業の白岩工区との一体的整備であり、事業完成年次を合わせ平成18年度に完成させる必要がある。</p>	12点
有 効 性	<p>観光拠点を結ぶ観光支援道路であるとともに沿線住民にとって重要な生活道路であり、安全で円滑な交通を確保するため、ほ場整備関連調整事業 白岩工区と一体的整備を進めており、整備後の有効性は高い。</p>	23点
効 率 性	<p>事業の費用便益比は、1.25であり、効率性は高い。 ・総費用の現在価値 868百万円 ・総便益の現在価値 1,088百万円 計画日交通量も2,200台となっている。 事業費については盛土材を他工区からの流用土としてコスト縮減を図っている他、広久内橋については玉川広域河川改修事業と同時施工しており、事業の効率性は高い。</p>	20点
熟 度	<p>用地買収は完了している。 工事も平成18年度完成予定であり、事業の熟度は高い。</p>	20点
判 定	<p>ランク ()</p> <p>観光支援道路であるとともに地域住民の重要な生活道路となっている他、すべての項目で評価点が高く、安全な生活環境の確保のため引き続き事業を実施すべきである。</p>	87点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止	
	事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H17-建-継-09)

適用基準名 道路改築事業(地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (角館町広久内)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	8	8	
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	6		
	・最小半径 < 100m	1箇所	4		
	・最急勾配 > 5%	0箇所以上	0		
	・冬期堆雪巾なし				
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7	4	
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	6		
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	5		
	・現道の事故率 50件	2件該当	4		
・通学路指定で歩道なし	1件該当	2			
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			15	12	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	あり	4	4	
	・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	3	0	
		位置づけなし	0		
	交通量	増加している	3	3	
		増加していない	0		
特有の課題の有無	あり	5	5		
・老朽橋、災害危険箇所、 ・冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	12	
有効性	道路の位置づけ				
	生活圏30分形成道路等	該当する	7	0	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
	地域防災計画に重要な道路	該当する	7	7	
		該当しない	0		
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	9	9		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	23	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	
		0.5以上~1.0未満	3		
		0.5未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	5	5	
		500台/日以上~1,000台日/未満	4		
		300台/日以上~500台日/未満	3		
		300台/日未満	0		
コスト縮減	あり	5	5		
	なし	0			
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計			20	20	
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)	8割以上完了	10	10	
		5割以上完了	8		
		1割以上完了	5		
		1割未満	2		
	用地買収の進捗(面積)	8割以上完了	10	10	
		5割以上完了	8		
	1割以上完了	5			
	1割未満	2			
	未着手	0			
計			20	20	
合計			100	87	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		